

22年中の火災・救急・救助の出動状況

～火災 21 件 救急 2,450 件 救助 45 件～

救急は過去最多、火災、救助も増加

平成 23 年 1 月 14 日
京丹後市消防本部

市消防本部では、このほど平成 22 年中の火災・救急・救助の出動状況をまとめました。

火災発生件数は昨年比 9 件増の 21 件が発生、火災による死者は 2 名（昨年なし）、負傷者は 11 名（昨年 2 名）となっています。

火災発生件数 21 件のうち、建物火災が 17 件発生し、車両火災 3 件、その他 1 件となっています。

出火原因（※1）については、たき火が 4 件、ストーブ、電気装置が各 2 件、不明・調査中が 5 件、放火、こんろ、たばこが各 1 件、その他によるものが 5 件であり、依然火災の多くは火気の取扱いの不注意や不始末から発生しています。消防本部では一層の火災予防のため、防火思想の普及と住宅用火災警報器の早期設置を、引き続き積極的に進めて参ります。

救急出動件数は昨年比 263 件増の 2,450 件、搬送人員で昨年比 217 人増の 2,303 人といずれも過去最多となっています。

事故種別ごとでは、急病が 1,531 件（約 62.5%）とその多くを占め、交通事故 289 件（約 11.8%）、一般負傷 288 件（約 11.8%）がほぼ同数で続きます。

搬送人員を年齢区分別（※2）で見ると、老人（高齢者）1,332 人（約 57.8%）、成人 733 人（約 31.8%）となり老人（高齢者）と成人で全搬送人員の約 9 割を占めています。

また、搬送人員を傷病程度別（※3）で見ると、中等症の傷病者が 1,051 人（45.6%）で最も多く、次いで入院加療を必要としない軽症の傷病者が 983 人（42.7%）となっています。

出動件数のうち現場到着所要時間（119 番通報から現場に到着するまでに要した時間）別（※4）では、5 分以上 10 分未満が 1,408 件（約 57.5%）で最も多く、次いで 10

分以上 20 分未満の 697 件（約 28.4%）、3 分以上 5 分未満の 246 件（約 10.0%）と続きます。

また、搬送人員についての病院収容所要時間（119 番通報から病院に収容するまでに要した時間）別（※5）では、30 分以上 60 分未満が 1,260 人（約 54.7%）で最も多く、次いで 20 分以上 30 分未満の 734 人（約 31.9%）、60 分以上の 172 人（約 7.5%）と続きます。

京都府、兵庫県及び鳥取県によるドクターヘリの共同運航が平成 22 年 4 月から開始された。このドクターヘリを要請した件数は 59 件であり、全救急出動件数に対する割合は 2.4%となっている。

救命率の向上のためには、救急現場に居合わせた人の応急手当が大切になることから、消防本部では今後も積極的に応急手当の普及啓発に努めることとしています。

最後に、救助出動件数については昨年比 15 件増の 45 件となっています。事故種別では、依然交通事故に係る出動が 30 件（約 66.7%）と最も多く、続いて、夏場の水難事故に係る出動なども 7 件（約 15.6%）となっています。

出動件数のうち、救助活動を行った件数は 23 件（昨年 23 件）で、救助人員は 24 人（昨年 25 人）となっています。

詳細につきましては、別冊の資料（平成 22 年「火災・救急・救助統計」）をご覧ください。

※1 平成 21 年中の全国の出火原因・・・1 位:放火・放火の疑い(21.9%)、2 位:こんろ(10.0%)、3 位:たばこ(9.8%)

※2 平成 21 年中の全国の年齢区分別搬送状況・・・高齢者(49.3%)、成人(40.9%)、少年(4.3%)、新生児・乳幼児(5.5%)

※3 平成 21 年中の全国の傷病程度別搬送状況・・・死亡(1.5%)、重症(9.9%)、中等症(37.8%)、軽症(50.7%)、その他(0.1%)

※4 平成 21 年中の全国の現場到着所要時間・・・3 分未満(1.7%)、3 分～5 分(10.8%)、5 分～10 分(65.2%)、10 分～20 分(21.0%)、20 分以上(1.3%)、平均 7.9 分

※5 平成 21 年中の全国の病院収容所要時間・・・10 分未満(0.1%)、10 分～20 分(8.5%)、20 分～30 分(32.7%)、30 分～60 分(50.6%)、60 分～(8.1%)、平均 36.1 分

お問合せ先

京丹後市消防本部 警防課

電話番号 0772-62-8129 / FAX 番号 0772-62-6119